

社会科研究委員会

1 研究テーマ

「社会的な見方・考え方を深める社会科授業の創造

～子どもはどのように事実（資料等）と出会い、向き合い、生かして、解決していくか～」

2 研究内容

(1) 社会科における『確かな力』＝『見方・考え方を深めていく』姿を、高山小の子どもたちの姿を通して具体的にとらえ直していく。

・高山小4年生の、地図やグラフ・図表等の資料と出会い、それらの事実認識から価値認識に迫る追究、そして新たな見方や考え方への深まりを具体的な姿でとらえ直していく。

(2) 問題解決学習の中で、事実（資料）とのかかわりをどう支援すれば、見方・考え方を深めていくのか。

・事実（資料等）との出会いの場面で、実態に合った提示の仕方や読み取りの工夫、既習事項や経験とのつながりの想起等、支援のあり方によってどのように見方・考え方を深めていくのかを考えた。

(3) つける力を明確にした地域素材の教材化を図り、その中で事実（資料）の提示や読み取らせ方、つなげ関連させて生かしていく工夫等の支援はどうあったらよいか。

・高山小の長野県の学習の中で、この単元でつけるねらいを明確にした上で、意識に沿った展開を工夫したり資料提示の場面を工夫したりといった支援を検討していく。

(4) 一時間の授業や単元を通しての評価の工夫

・授業の途中や単元展開の中で、ねらいに基づいた評価を積み重ねて、評価を生かした展開や振り返りを工夫したい。

3 研究の成果

(1) 指導の実際

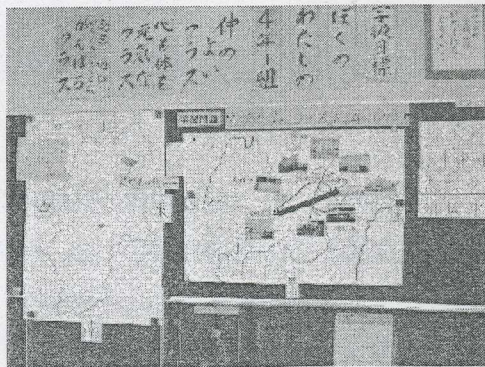
☆郡研究日の授業：高山小学校 4年1組 （授業者）宮澤 明彦 教諭

（単元名）『わたしたちの長野県』 小単元 「長野県の地図を広げてみよう」

① 資料提示やその生かし方は、見方・考え方を深めていく支援となったか。

・「（長野市への）社会見学のコースを調べよう」という問題に沿って、高山村・長野市周辺の拡大白地図やコースに合わせた写真、高山村と海拔が比較できる図のていねいな提示があったこと、一人ひとりの白地図で市町村範囲をなぞったり拡大白地図上で写真と共にコースを追ったりしたことで、社会見学への意欲はもちろん、周辺市町村の面積や位置関係（方位）、標高の違い等、新たな気づきや発見ができた。

・子どもたちは、資料との出会いやなぞる作業の中で、多くの発見がありつぶやきも多かったが、やや活動内容が多く、焦点化された追究とならなかった。つぶやきや疑問から、資料を生かした問題に絞っていったのではないか。



② 単元や一時間のつける力を明確にしておくことで、知識・理解や資料の活用力に広がり生まれたのではないか。

- ・主眼は高山村と長野市の位置関係や地形の様子だったが、白地図をなぞる活動から子どもたちは各市町村の面積の違いに目が向いていった。新たな気づきであり、子どもたちの意識に沿った問題の焦点化を図りたい。
- ・海拔の図示によりその違いを知ることはできたが、コースをたどっていく中で生活経験を語らせていく場の設定により、「坂になっている」「リンゴが多く作られている」「家やビルが多い」…等の今後の学習にもつながる見方も出できたのではないか。

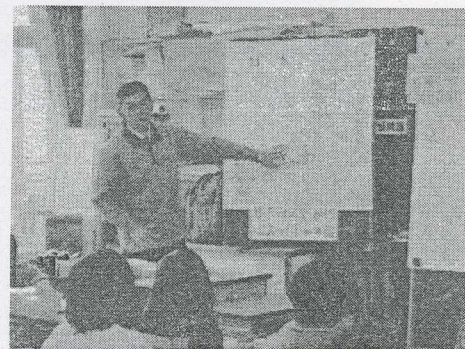
(2) 事例から明らかになったこと

資料との出会わせ方や向き合い方、生かし方の工夫を通して、子どもたちは見方・考え方を深めることができたか。

- ① 身近な地域の学習においては、見学や調査等の体験的な学習活動が期待できる点もあり学習への意欲が高いが、資料との出会いにおいても、ねらいやつける力を明確にした上で、資料のもつ価値の吟味や児童生徒の反応を予想し、提示（大きさや中身の吟味、タイミング等）の工夫を図ることで、確かな読み取りや事実認識につながる。
- ② 子どもは、資料との出会い・向き合いの中で、様々な気づきや発見をする。それら予想された反応から、ねらいに迫る気づきや疑問を焦点化したりさらには新たな価値認識につながる問題に高めたりしていくことで、見方・考え方の深まりにつながる。

4 来年度への課題

- (1) 「見方・考え方を深めていく」姿を、資料（事実）との出会いや読み取る場面での具体的な姿からとらえ直そうとした。資料を活用しての学習は、全ての社会科学習の単元に含まれてくるもので、今後さらにどのような支援をすれば見方・考え方の深まりにつながる学習となるのか、研究を進めたい。
- (2) つける力を明確にした上での地域素材の教材化を進め、その学校や本郡ならではの学習を創造していきたい。その中で、事実（資料）とのかかわりをどう支援していくかを検討していきたい。
- (3) 一時間の授業や一単元の中で、何らかの評価をし指導に生かしてはいるが、なかなか評価そのものに焦点を当てての検討はされていない。例えば一時間の授業の中でも、学習途上の形成的な評価をどのようにして、指導にどう生かしたのかに焦点を当てた研究への取り組みも進められると良い。



5 その他

- 郡研究日では、授業公開・研究会と合わせて、間近に迫った『裁判員制度』の学習会を設定した。新学習指導要領にも内容の取り扱いとしてこの制度も取り上げられているので、身近な問題として長野地裁の方を講師に研修を深めることができた。今後も、参会者が実践に生かせる研修の工夫を図っていきたい。
- 学習会を設定したこともあり、研究会を委員会外の講師をおかずにグループ討議という形をとった。少人数で話しやすかったという評価もあり、授業研究の一つの形としていきたい。

